

<b>Course number</b>		U-LAS60 10001 LJ17					
<b>Course title (and course title in English)</b>	統合科学：閉じた地球で生きる（地球環境とエネルギー） Interdisciplinary Sciences :Sustainable Living on the Earth as a Closed System (Earth Environment and Energy)			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Science Associate Professor,MAESATO MITSUHIKO Graduate School of Science Professor,YAMOCHI HIDEKI Graduate School of Science Associate Professor,SHIBATA TOMOO  Part-time Lecturer,MOCHIZUKI KANAE		
<b>Group</b>	Interdisciplinary Sciences		<b>Field(Classification)</b>		Interdisciplinary Sciences		
<b>Language of instruction</b>	Japanese		<b>Old group</b>			<b>Number of credits</b>	2
<b>Number of weekly time blocks</b>	1	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Year/semesters</b>	2024・Second semester	
<b>Days and periods</b>	Fri.4		<b>Target year</b>	All students		<b>Eligible students</b>	For all majors
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
地球環境問題の解決は、人類の近未来に関する喫緊の課題である。地球温暖化、地球汚染、動植物の生態系の悪化などが挙げられるが、そのほとんどが人類がエネルギーを得るために引き起こした問題であり、特に若い世代が文系・理系の垣根を超えて、その解決に積極的に取り組まなければならない。この授業では、履修者一人一人にテーマを考えてもらい、全員でのディスカッションやグループワークを経て、将来の展望について小論文をまとめ、プレゼンテーションを行うことを目的とする。コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養い、将来のキャリアパスに役立てることが重要だというスタンスで、参加型自由形式の授業を行う。							
<b>[Course objectives]</b>							
地球環境とエネルギーというテーマに関して文献や資料の調査を行い、自らの課題を設定できる。グループで議論をする中で積極的に発言し、コミュニケーション能力を身につける。さらに、絞られたテーマについて深く考察して問題解決力を養い、最終到達目標は、小論文を作成してその内容をプレゼンテーションすることとする。							
<b>[Course schedule and contents)]</b>							
Zoomを利用してライブ授業を行う。							
1．地球環境とエネルギーの問題点を知る （第1回～第3回）  深刻だと考えられている地球環境問題、あるいはそのエネルギー問題との関連について、文献を調査し資料を揃えて現状把握を図る。また、教員のプレゼンテーションも交えて問題提起も行う。  KEY WORD: 9大地球環境問題、2030年の電源構成							
2．履修者によるテーマ設定 （第4回～第7回）  履修者一人一人に研究テーマを考えてもらい、ショートプレゼンテーションを行って全員でディスカッションする。  KEY WORD: 答えのない問題、未来予測							
<div style="text-align: right;">Continue to 統合科学：閉じた地球で生きる（地球環境とエネルギー）(2)</div>							

3．地球環境とエネルギー問題の解決策と近未来予測（第8回～第12回）

それぞれが選んだテーマについて、さらに調査と考察を加え、グループワークや全体討論を通して、その解決策を見出す。それを基に、近未来に地球環境や社会がどのようなになるのかを予測し、それを小論文にまとめる。

KEY WORD: 人口問題、エネルギーの需要と供給，A I

4．プレゼンテーション（第13回～第14回）

履修者一人一人が、研究結果についてのプレゼンテーション(15~20分)を行い、質疑応答という形でディスカッションを行う。

5．フィードバック（第15回）

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

出席や授業中での参加状況(50%)、小論文提出および最終プレゼンテーション(50%)を総合して評価する。

**[Textbooks]**

Not used

**( Related URL )**

<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/resources/limited/all/tougoukagaku01.php>(授業紹介ページ)

**[Study outside of class (preparation and review)]**

授業内容を復習し，小論文作成やプレゼンテーションの準備の時間を取ること。

**[Other information (office hours, etc.)]**